

# 福島県岩瀬郡天栄村白子方言の否定の表現

飯豊 毅一

## I. はじめに

- (1) 調査対象地：福島県岩瀬郡天栄村は猪苗代湖の南方十数キロに位置し、北東は郡山市に、北西は会津若松市に、西は南会津郡下郷町に、東は須賀川市に、南は大信村を経て白河市に接する。天栄村の戸数は約1600、白子は大字の一つである。白子の戸数は約150。米麦等の穀類生産中心の農村であるが、野菜の栽培も一部の地区で行われている。薪炭業は現在はずたれた。旧会津街道（茨城街道）すじに位置し、白河市の北方約15キロ、会津若松市の東南約40キロにある。柳田国男の「勢至堂峠」は会津若松市より、この道を通して白河市に達する紀行文で、『豆の葉と太陽』に収められている。
- (2) 調査年月日時：  
1994年9月23日午後1時10分～午後5時20分（兼子隆雄・タイ）  
1994年9月24日午前9時～午後4時（飯豊睦雄）
- (3) 話者：  
兼子隆雄 大正9年8月28日生（74歳）農業。天栄村白子字中屋敷46に居住。  
兼子タイ 大正5年4月23日生（79歳）農業。天栄村白子字中屋敷46に居住。  
飯豊睦雄 昭和5年8月4日生（64歳）教員。郡山市久留米6丁目に居住。白子中屋敷48より転居して2年になる。ただし、しばしば白子を訪れる。
- (4) 調査者・調査場所：飯豊毅一、ともに話者宅。
- (5) 調査方法・調査時の状況：臨地面接調査。木犀の香りが馥郁として閑静な環境であった。睦雄も白子に在宅中であつた。
- (6) 表記方法：カタカナ書きとする。ke・se・jeは、け・せ・いゑとする。無アクセント地帯であるが、高い音調には線を引く。これは話者の気分によりかなり変動があると承知されたい。

## II. 調査結果

### 1. 動作・作用の否定表現

1. 行かない ○ドゴサモ エガ<sup>o</sup>ねー
2. 雨は降らないよ ①アメ フンねー／②アメワ フンねーゾ／普通は①のように無格でいう。特に雨を取り立てて発言すると②のようになる。
3. 行きません ①エギマセン／②エガ<sup>o</sup>ねーゾエ／①は共通語風の言い方であるが、現在では、丁寧な言い方として一般的になってきている。②は話し相手を意識して、

行きませんよ、というとき。

4. 行きはしない ① イッキャシねー。アイ連母音は /εR/ [ε:] であるが、実際には、しばしば [c:] と発音される。特に否定辞の場合にはネーと発音されることが多い。
5. いらっしゃらない ① エガねーゾ。 / ② エガねーナエ。相手に敬意を持って、指示・依頼をする言い方は、エキナシヨ・エガシエ・エガせー等の表現があるが、その否定の形は、エガシャンねー・エガサンねーとは言わず、①②が普通である。しかし、礼儀を重んじる人が、エキナサンねー・エガシャンねーと言ったとしても、それほど変ではない。 / ③ エガねガッパイ / これは「行かないでしょう」の意であるが、この表現で遠慮した気持ちが敬意を表すこともある。パイは相手尊敬を示す形でペー（ペー）の変容形。
6. 行かなかった ① エガねガッタワイ / ② エガねガッタゾイ / 相手の問いに答える場合である。 / ③ エガナガッタワイ。等の言い方は若者に多く聞かれるようになった。
7. 行きはしなかった ① エキワシネガッタ。強めていうときにはこのようになる。4のイッキャシねー。の場合は軽く促音の入ることが多い。
8. ① イグめードオモッテル。 / ② イグめードオモッテダ。 / ①は現在形、②は完了形であるが、完了態で言ってもよい。 / ③ エガねーペー。これは新しい言い方である。全体としてこの項目は意味不明である。意志・推量とが今や区別されつつあるので、その方向で設問された方がよい。①②は意志を表すことが多い。③は意志・推量ともに示し得る。 / ④ エガねガンペー。 / ⑤ エガねガッペー / は推量のみを示す。エガねガンペーは栃木県に連なる形であり、エガねガッペーは茨城県に連なる形であるが、エガネガッペーが多い。
9. 出まい これも設問に難あり。① デめードオモッテル。 / ② デめードオモッテダ。①②は主に意志を示す。 / ③ デねーペー、意志・推量ともに示す。新しい言い方。 / ④ デねガンペー。推量のみを示す。栃木県に連なる言い方。 / ⑤ デねガッペー。推量のみを示す。茨城県に連なる言い方。多数を占める。
10. すまい 設問に難あり。前項に同じ。① シめードオモッテル。 / ② シめードオモッテダ。ともに意志を示すことが多い。 / ③ シマイ。 / 相手尊敬のとき「シマイ」というが、「あなたはしないでしょ」の意である。 / ④ シねーペー。意志・推量ともに示す。新しい言い方。 / ⑤ シねガンペー。栃木県に連なる言い方。 / ⑥ シねガッペー。茨城県に連なる言い方。ともに推量のみを示す。⑥が多数を占める。 / ⑦ シねガンバイ。相手尊敬。「しないでしょ」の意。栃木県に連なる。 / ⑧ シねガッバイ。相手尊敬。茨城県に連なる言い方。
11. 降らないだろう ① フンめー。やや古風な言い方。文章語的。 / ② フンマイ。相手尊敬。 / フンねガンペー。栃木県に連なる言い方。 / ④ フンねガッペー。茨城県に連なる言い方。多数を占めてきている。 / ⑤ フンねガンバイ。相手尊敬。栃木県に連

なる言い方。／⑥フンねガッパイ。相手尊敬。茨城県に連なる言い方。／⑦フンねー  
ペー。新しい言い方。最近広まってきた。

- 1 2. 降るに違いない ①フッペー。／②フンダンペー。栃木県に連なる言い方。／③  
フンダッペー。茨城県に連なる言い方。それぞれに相手尊敬の言い方のフッパイ、フ  
ンダンバイ、フンダッパイがある。④フッテ クッツォ。／⑤フッツォ。／④⑤は雨  
が降ることをかなり確信しているとき。
- 1 3. 来ない ○コねー。
- 1 4. 来はしない ①キワシねー。／②キヤシねー。若者に広がっている。／③コねガ  
ッペー。推量形を用いているが婉曲に言っているだけ。
- 1 5. 来なかった ①コねがった。／②コねガッタンペー。推量形を用いているが婉曲  
に言っているだけ。
- 1 6. 見ない 設問無理。来ないは来ないと言う。「ミねー」も「ミカケねー」もある  
が、設問の意に近づけて言えば、誰も来ない。それで、誰も①ミねー。／②アワねー。  
／③ミカケねー。／
- 1 7. 居ない 設問の意、不明。①イねー。／②イねーッタッタ。／「イねクテアッタ」  
の意であろう。敬意はない。
- 1 8. 行かずにいる ①エガ<sup>o</sup>ねーデ。／②エガ<sup>o</sup>ねクテ。／③エガズニ。これはかなり文  
章語的だ。
- 1 9. 行かなくても ①エガ<sup>o</sup>ねクッタッテ イー。多い。／②エガ<sup>o</sup>ナクッタッテ イー。  
共通語的だ。
- 2 0. 行かなければ ①エガ<sup>o</sup>ねーバ エガ<sup>o</sup>ッタ。新しい形。／②エガ<sup>o</sup>ねーゲレ エガ<sup>o</sup>  
ッタ。多い。オーソドックスな言い方。／③エガ<sup>o</sup>ねーゲ エガ<sup>o</sup>ッタ。②の省略形。
- 2 1. 行かなければ ①エガ<sup>o</sup>ねッカ ナンねー。／②エガ<sup>o</sup>ねッケ ナンねー。／③エガ<sup>o</sup>  
ナッカ ナンねー。／④エガ<sup>o</sup>ねーゲ ナンねー。／⑤エガ<sup>o</sup>ねクテ ナンねー。
- 2 2. 行かなければならない ①エガ<sup>o</sup>ナ ナンねー。／②エガ<sup>o</sup>ンナンねー。
- 2 3. 行かず ○ドコサモ エガズダ。
- 2 4. 行きもせず、来もしない ①イキ<sup>o</sup>モシねーシ キモシねー。
- 2 5. 行くか行かないかわからない ①イク<sup>o</sup>ガイガ<sup>o</sup>ねーガ ワガンねー。／②インカ  
イガ<sup>o</sup>ねーガ ワガンねー

## 2. 存在・状態・判断の否定表現

- 2 6. これだけしかない ①コレシカ ねー。／②コレッパシシカ ねーゾエ。／③コ  
レッキリ ねーゾエ。／④コレシカ ねーゾエ。
- 2 7. 今年のように暑い年は無いねえ ①ねーナイ。文末助詞ナイは相手尊敬。／②ね  
ーナー。文末助詞ナーは対等であることを示す。／③ねーナン。ナンは親しさを示す相

手尊敬。

28. 今年のように暑い年はありはしない ①ア<sup>リ</sup>ヤシ<sup>ね</sup>-ナイ。ナイは相手尊敬。/  
②ア<sup>リ</sup>ヤシ<sup>ね</sup>-ナー。ナーは対等であることを示す。/  
③ア<sup>リ</sup>ヤシ<sup>ね</sup>-ナン。ナンは親しさを示す相手尊敬。「ア<sup>リ</sup>ヤシ<sup>ね</sup>」という表現はめったに用いない。まれ。
29. 今年のように暑い年は無かったねえ ①<sup>ね</sup>ガ<sup>ッ</sup>タ<sup>ナイ</sup>。ナイは相手尊敬。/  
②<sup>ね</sup>ガ<sup>ッ</sup>タ<sup>ナー</sup>。ナーは対等であることを示す。/  
③<sup>ね</sup>ガ<sup>ッ</sup>タ<sup>ナン</sup>。ナンは親しさを示す相手尊敬。
30. ありはしなかった ①<sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>タ<sup>ナイ</sup>。ナイは相手尊敬。/  
②<sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>タ<sup>ナン</sup>。ナンは親しさを示す相手尊敬。③<sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>タ<sup>ナー</sup>。ナーは対等の文末助詞。「ありはしなかった」という表現はめったに使わない。
31. もう無いだろう ①<sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>ベ<sup>ナン</sup>。ナンは親しさを示す相手尊敬。/  
②<sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>ベ<sup>ナイ</sup>。ナイは相手尊敬。/  
③<sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>ベ<sup>ナー</sup>。ナーは対等を示す文末助詞。①②③は茨城県方言に連なる言い方。④<sup>ね</sup>-ガ<sup>ン</sup>ベ<sup>ナン</sup>。少ない。/  
⑤<sup>ね</sup>-ガ<sup>ン</sup>ベ<sup>ナイ</sup>。少ない。/  
⑥<sup>ね</sup>-ガ<sup>ン</sup>ベ<sup>ナー</sup>。少ない。④⑤⑥は栃木県に方言に連なる言い方。/  
⑦<sup>ね</sup>-ベ<sup>ナイ</sup>。等の言い方も新しい表現として広まってきた。
32. 無ければ ①<sup>ね</sup>-ゲ<sup>レ</sup>。/  
②<sup>ね</sup>-ゲ。少ない。/  
③<sup>ね</sup>ッ<sup>カ</sup>。
33. 暑くない ①ア<sup>ズ</sup>イ<sup>グ</sup> <sup>ね</sup>-。多い。/  
②ア<sup>ズ</sup>グ <sup>ね</sup>-。少ない。増してくる。
34. 暑くはない ①ア<sup>ズ</sup>イ<sup>グ</sup>ワ <sup>ね</sup>-。/  
②ア<sup>ズ</sup>グワ <sup>ね</sup>-。少ない。増してくる。
35. 暑くなかった ①ア<sup>ズ</sup>イ<sup>グ</sup> <sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>タ。/  
②ア<sup>ズ</sup>グ <sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>タ。少ない。増している。
36. 暑くはなかった ①ア<sup>ズ</sup>イ<sup>グ</sup>ワ <sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>タ。/  
②ア<sup>ズ</sup>グワ <sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>タ。少ない。増している。
37. 暑くないだろう ①ア<sup>ズ</sup>イ<sup>グ</sup> <sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>ペー。/  
②ア<sup>ズ</sup>グ <sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>ペー。少ない。増している。①②は茨城県方言に連なる。/  
③ア<sup>ズ</sup>イ<sup>グ</sup> <sup>ね</sup>-ガ<sup>ン</sup>ペー。少ない。/  
④ア<sup>ズ</sup>グ <sup>ね</sup>-ガ<sup>ン</sup>ペー。少ない。③④は栃木県方言に連なる。/  
⑤ア<sup>ズ</sup>イ<sup>グ</sup> <sup>ね</sup>-べ。新しい形。増している。
38. 涼しくないねえ ①ス<sup>ズ</sup>シ<sup>ク</sup> <sup>ね</sup>-。/  
②ス<sup>ズ</sup>シ<sup>イ</sup>グ <sup>ね</sup>-。少ない。この地の方言は一般に形容詞の活用形は終止形の形を含んでいるが、シク活用の場合は、ス<sup>ズ</sup>シ<sup>ク</sup>カ<sup>ッ</sup>タ、ス<sup>ズ</sup>シ<sup>ク</sup>ナイ、ス<sup>ズ</sup>シ<sup>ク</sup>レ<sup>バ</sup>等のように表現される。ス<sup>ズ</sup>シ<sup>イ</sup>ガ<sup>ッ</sup>タ、ス<sup>ズ</sup>シ<sup>イ</sup>グ<sup>ナイ</sup>、ス<sup>ズ</sup>シ<sup>イ</sup>ゲ<sup>レ</sup>バ等の形はまれである。
39. にぎやかでない ①ニ<sup>ン</sup>ニ<sup>ャ</sup>ガ<sup>デ</sup> <sup>ね</sup>-。/  
②ニ<sup>キ</sup>ヤ<sup>ガ</sup>デ <sup>ね</sup>-。若い人に多い。
40. にぎやかではない ①ニ<sup>ン</sup>ニ<sup>ャ</sup>ガ<sup>デ</sup>ワ <sup>ね</sup>-。/  
②ニ<sup>キ</sup>ヤ<sup>ガ</sup>デ<sup>ワ</sup> <sup>ね</sup>-。若い人に多い。
41. にぎやかでなかった ①ニ<sup>ン</sup>ニ<sup>ャ</sup>ガ<sup>デ</sup> <sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>タ。/  
②ニ<sup>キ</sup>ヤ<sup>カ</sup>デ <sup>ね</sup>-ガ<sup>ッ</sup>タ。若い人に多い。

42. にぎやかではなかった ①ニ<sup>ニ</sup>ンニヤガデワ ねーガッタ。／②ニ<sup>キ</sup>ギヤガデワ ねーガッタ。若い人に多い。
43. にぎやかではなからう ①ニ<sup>ニ</sup>ンニヤガデワ ねーガッペー。茨城県方言に連なる。／②ニ<sup>ニ</sup>ンニヤガデワ ねーガンペー。少ない。栃木県方言に連なる。／③ニ<sup>ニ</sup>ンニヤガデワ ねーペー。新しい言い方。若い人はニ<sup>キ</sup>ギヤカと言う人が多い。相手尊敬の時は「ねーガッパイ」「ねーガンバイ」等となるが、「ねーバイ」は少ないようである。
44. 花ではない ①ハナデ<sup>ね</sup>ねー。／②ハナデ<sup>ワ</sup>デワ ねー。普通は「ハナデ ねー」と言うことが多い。特に区別するとき「ハナデ<sup>ワ</sup> ねー」という。

### 3. 特定の慣用句による否定表現

45. だめだ ○ダ<sup>メ</sup>メダ。
46. だめなやつだ ○ダ<sup>メ</sup>メナヤツダ。
47. つまらないこと言うな ①ツ<sup>マ</sup>マンねーゴド ユーナ。／②ヘ<sup>デ</sup>デーナシ ユーナ。
48. 行ってはいけない ①イ<sup>ッ</sup>テワ ダメダ。／②イ<sup>ッ</sup>テナンねー。
49. 行かれん ①イ<sup>ッ</sup>チャ ダメ。／②イ<sup>ッ</sup>チャ ナンねー。
50. 行くな ○イ<sup>グ</sup>ナ。
51. いたずらするな ○ワ<sup>ル</sup>サ シンナ。
52. 行くもんじゃない ○イ<sup>グ</sup>モンデ ねー。
53. たまらない ○タ<sup>マ</sup>マンねー。
54. 仕方がない ①シ<sup>カ</sup>ダ ねー。／②ショ<sup>ー</sup> ねー。
55. 楽ではない ①ラ<sup>グ</sup>デ ねー。多い。／②ラ<sup>グ</sup>ジャ ねー。
56. 歩きたくない ①アル<sup>ギ</sup>でグ ねー。／②アル<sup>ギ</sup>ダグ ねー。
57. 大丈夫だ ①シン<sup>ベ</sup>ー シねクテモ ダイジョーブダ。

### 4. 否定の応答表現

58. いや ○イ<sup>ン</sup>ヤ フンねガッタナ。
59. いいえ ○イ<sup>ン</sup>ヤ フンねガッタゾエ。(強い否定)
60. いいえ ○イ<sup>ン</sup>ヤ フンねガッタナエ。(丁寧)
61. ①イ<sup>ン</sup>ヤ フッタ。  
②ン フンねガッタ。
62. どういたしまして ①ナン<sup>ニ</sup>モ デギねクテナイ。／②ト<sup>ン</sup>デモねー ナンニモ デギねクテ。

### 5. 不可能の表現

63. できない ①デ<sup>ギ</sup>ねー。／②オ<sup>レ</sup> ワガンねーモノ。

64. 読むことができない(状況) ①ヨマンニエ。このとき[joma]:(e)で[ŋ]εではない。  
 /②ヨメねー。なお、この方言では、状況可能と能力可能の別ははっきりしていない。  
 しかし、能力可能はヨメねーで、状況の場合はヨマンニエという傾向がかなり見られる。
65. 読むことができない(能力) ①ヨメねー。②ヨマンニエ。少ない。
66. 出られない ①デランニエ。多い/②デレねー。最近入ってきた形。若者に多い。
67. 食べられない ①クワンニエ。/②タベランニエ。この方言では一般に「食ワンニエ」と言い、食べるという語を用いないが、次第に使用するようになっていく。少ない。  
 /③クイねー。食えないの意。能力をいう場合に多く用いられる。設問の場合はクワンニエが多く、クイねーは少ない。
68. 忙しくて昼食も食べられない ①クワンニエ。多い。/②タベランニエ。共通語風。  
 /③クイねー。食えないの意。少ない。

## 6. 反語・反発の強調表現

69. おれが知るものか ①オレ シッテッカ。/②オレ シルモンカ。/③オレ ワガンめー。
70. 誰が行くものか ①ダレガ イグモンカ。/②ダレガ イグカ。
71. 何で行くか ○ナンデイグカ。
72. 何で恥ずかしいものか ①ナンデ ハズガシガッベ。多い。/②ナンデ ハズガシガンベ。少ない。/③ナンデ ハズガシーベ。新しい言い方。若者に多い。
73. 行かないでおるものか ①エガねーデ エラレッカイ。/②エガねーで エラレッカ。これは対等以下に言う。
74. お前にやれるか ①ニシャニ デギッカ。/②ニシャニ デギッカイ。/①は怒気を含んだような言い方。②はゆとりを持って、からかい気味に言うとき。
75. そんなにいやならしなくてもいい ①ソダニイヤダラバ タノマねー。(オレガメノタマ クロイウチワ ワスレねーゾ)と言うことあり。強い警告。

## 7. 特定の副詞の関わる否定表現

76. 少しもはかどらない ①チットモハガエガねー。
77. ぜんぜんできていない ①テンデ デギデねー。/②ネッカラ デギデねー。
78. いっこうに降らない ①イッコーニ フンねー。/②チットモ フンねー。
79. あまり降らない ①アンマシフンねー。/②アンマリ フンねー。/③ソダニフンねー。
80. 予想外にたくさん取れた ①ヨソーけーニトッチャ。/②ホーゲモねグ トッチャ。

## 8. その他否定形式の関わる諸表現

81. いいではないか ① エージャ ねーガ。 / ② エーガモシンニエ。
82. いいのではないか ① エガネクテモ ヨガッペー。 / ② エーデねーガ。
83. いいかもしれない ① エガねクテモ エーガモシンニエ。
84. いっしょに行かないか ① イッショニエカねーガ。 / ② イッショニヤベ。ヤベはアユベの転。
85. 持ってくれないか ① モッテクンニエガナエ。
86. 持ってくれませんか ① モッテクンニエガッペガナエ。 ② モッテクンチえ。
87. 持って下さいませんか ① モッテオグンナンショ。
88. 早く行かないと ① ハヤグイガねド。 ② ハヤグ イットラ。

### III. 総括 (まとめ)

【1】この地の方言の否定表現は「ない」の形式を用いる。「書かねー、読まねー、取らねー（取らない）、貰（モラ）-ねー、起キねー、受ケねー、出ねー、コねー、シねー、のようになる。なる。主な活用表をあげれば次のようになる。

活用形	1	2	3	4	5
接続 活用 法 語例	テ ナル スル	ペー タ	ペー	φ(言い切り) 人 ガラ トキ ゲンドモ ゲンジョモ	ゲレ(バ) ッカ ツケ 注
書かない	カガねグ	カカねガッ	カガねガン	カガねー	カガねー
取らない	トンねグ	トンねガッ	トンねガン	トンねー	トンねー
来ない	コねグ	コねガッ	コねガン	コねー	コねー
しない	シねグ	シねガッ	シねガン	シねー	シねー
見ない	ミねグ	ミねガッ	ミねガン	ミねー	ミねー
高くない	タげグネグ	タげグねガッ	タげグねガン	タげグねー	タげグねー

【2】第1はテ、ナル、スル等に連なる形である。書ガねクテ遊ンテシマツタ。書ガねグナル。書ガねグスル。第2はペーやタに連なる形である。書ガねガッペー。書ガねガツタ。第3はペーに連なる形である。書ガねガンペー。第4は言い切りの形であるが、この形は同時に体言に連なる形でもあり、ガラ、ゲンドモ、ゲンジョモ、デ等に連なる形でもある。オレワ書ガねー、書ガねー時、書ガねーガラ、書ガねーゲンジョモ、書ガねーデシマツタ。第5は順接のゲレ(バ)、ッカ、ツケ等に連なる形である。この方言は書ガねーゲレバ、書ガねーゲレ、書ガねーツケ、書ガねーッカ等の形をとる。いずれも「書かなければ」の意である。設問N0.20・21の形である。ただし、設問N0.22の場合には特別な形があ

り、書ガナナンねー、書ガンナンねーという。ただし、これは高年層の人に多い。たぶん「書カネバナライ」の転化形であろう。書カネバを出自とする東日本の方言形は珍しいとすべきであろう。書ガナナンねー、書ガンナンねーはかなり古くから使われている形で、明治初年生まれの高齢者たちが使用していたことを記憶している。しかし、現代では、書ガねッカナンねー、書ガねッケナンねー、書ガねーゲレナンねー等の言い方が多くなってきている。

書ガねッカは「書ガねーケレバ」→書ガねーケリア→書ガねーッケリア→書ガねッキヤ→書ガねッカのような変化が考えられる。書ガねーゲレバはバを省略した形、書ガねーゲレという形も多く使われる。さらに省略を進めて、書ガねーゲの形もある。また、書ガねッカの形の類推かと思われるが、書ガねッケの形も用いられている。

【3】ペーに連なる形は注意を要する。東国の否定表現は「ない」をつけて表すのが普通である。「ない」は形容詞活用する。書ガねカンペー（書かないだろう）（「書カナカルベシ」に由来する）形が多く用いられたが、昭和初年になると水戸街道を通じて入ってきた茨城弁の書ガネガッペーがしだいに強力になっていった。書ガネガンペーは中通り南部の白河市以南にはまだ強力に使用されている。注意すべきは形容詞活用の場合には原則として、各活用形がすべて言い切りの形を含んでいるということである。したがって、「高い」を例とすれば、タげ（ー）グねー（高いくない）、タげ（ー）ガッタ（高いかった）、タげ（ー）ガッペー（高いかっペー）、タげ（ー）ガンペー（高いかんペー）、タゲー（高い）、タげ（ー）ゲレバ（高いければ）のようである。否定の場合も同様に、書ガね（ー）グナル（書かないくなる）、書ガね（ー）ガッタ（書かないかった）、書ガね（ー）ガッペー（書かないかっペー）、書ガね（ー）ガンペー（書かないかんペー）、書ガねー（書かない）、書ガね（ー）ゲレ（バ）ー（書かないければ）のように活用する。シク活用を除き形容詞活用する語はすべての活用形に言い切りの形を含んでいるといえるのである。そして、天栄村の場合はペーがつく形は、1930年頃は、書クペー、読ムペー、取ッペー、受ケッペー、クッペー、シッペー、見ダンペー、高（タげ）ガンペー、ソーダンペーのように使用されていたが、つまり、ラ行五段と上一段と下一段、カ変、サ変とは促音より連なり、形容詞とタ・ダに連なる形は高（タげ）ガンペー、見ダンペー、ソーダンペーのようになるのであった。ところが、その後急速に形容詞とタ・ダに連なる形について異変が生じた。高（タげ）ガッペー、見ダッペー、ソーダッペーの形が使われるようになった。これは茨城県の言い方である。茨城街道（水戸街道）に沿って広まったと見られる。昭和初年の頃はまだ、悲シカンペー、キタンペー、ソーダンペーの形も多く聞かれたが、終戦後は、促る形が主流になっている。そしてさらに注目すべきことは、否定の意志を表す表現である。かつて否定の推量・意志を表す場合には「まい」を用いた。

○アノヒト ソダゴド シマエ。（あの人はそんなことしないでしょよ。注）



○オラ ハー ワルサ シめード オモック。(私はもういたずらはするまいと思った。)  
しかし、しだいに「まい」は使用されなくなり、全然用いられなくなったわけではないが、代わりに新しい表現が生じた。それは、

○ワゲーてーノゴドワ クジゾエ シねーベナード オモーゲンジョモ。  
(若い連中のことは、口出しするまいとおもうけれども)

1969.6 福島市飯坂町茂庭 飯豊－福島県北部方言資料より  
のような言い方がしだいに用いられたのである。私がこの表現に初めて気づいたのは1965年の福島県北部地域の方言調査であった。それを記録して国立国語研究所内部資料として報告したのが上記の例である。注：ソダゴド シマエは相手尊敬の推量表現。イクめー、カグめー、シめー、キめーは否定の意志・推量の意を表すが、イクマエ、カグマエ、シマエ、キマエは相手尊敬の推量表現である。同様の例にイクペー、カグペー、シッペー、クッペーがある。イクバエ、カグバエ、シッバエ、クッバエは相手尊敬の推量表現である。

否定の意志・推量を表す「まい」がすたれて、しだいに「書ガねーペー・シネーペー」が用いられるようになったということは方言界においては大事件であったと認めるべきである。それは「ペー」が言い切りの形について、文末助詞化していったとも言えるが、それよりも、形容詞活用の「書かない」についた「ペー」が意志を示すことになったことを重視したい。本来福島県方言の形容詞活用の語に「ペー」のつく形は、高(たけ)ーガンペー、書ガねガンペーの形であった。さらに古くは高(たか)カンペー、書カナカンペーであったろう。しかし、しだいに言い切りの形につくようになった。言い切りの形について高イペー(たけーペー)、書ガねーペーの形がしだいに広がっていったが、これは北奥方言がはやかった。初めは、高(たけ)ーペー、高(たけ)ガンペー、書ガねーペー、書ガねガンペーがともに用いられていたが、しだいに言い切りにつく形式が多くなった。福島県では1940年頃には郡山市の郊外でも高(たけ)ーペー、書ガねーペーが使われていた。しかし、それは推量の意味に限られていた。それが意志を表すようになったのである。そしてそれは急速に広がっていった。1965年には栃木県河内郡上三川町で若者の話の中で聞かれた。1975年には、埼玉県越谷市、東京都東村山市の少年たちに、書イタペー、ソーダペー、高(たけ)ーペー、シねーペーの表現が聞かれた。1989・1990年にかけて、昭和女子大学の有志の千葉県館山市を中心とした房総南端部方言調査では、この地にもこれらの言い方が及んでいることがわかる。ただし、従来神奈川県方言には、伝統的な高カンペー、書カナカンペーの形が行われていた。したがって、ここは長くこの形が残ると予想された。しかし、それも、この二三年来急速に、高イペー、書カねーペーの形が若者の間に広がっているという。1992年には平塚市郊外でも、この形が若者の間に及んでいるという報告がある。多分、遠からずしてこの言い方は、ペー使用地にすべて広がるであろう。

【4】この方言の過去の表現について一言する。回想・経験・反復・強調等を示す場合に

特別な表現法のあることである。回想を表すには「タッケ」を用いる。

○コドモノ コロ アノカワニ ヨー ツリニ イッタツケ (子供の頃、あの川に魚釣りに行ったっけ) 幼時を回想しての発言である。

用言に直接「ケ」をつけることもある。

○キノー センセー アルイテ イグッケワ (昨日、先生、歩いて行ったよ)。これも回想して言っているが、話し手が直接見聞したことに限られる。だから話者自身について「オレが<sup>o</sup> イグッケ」と言うことはない。話者の見聞したことに限られるということは大事である。見聞したことを報告しているのである。

○アイズ スモー ツイエツケ チー (あいつ、相撲強かったなー)。相撲を見てきて報告しているのである。高年者は「ツイエツケ」が多いが、若い人は「ツイエガツケ」が多い。また、第三者については言えるが、話者が「オレワ」強イツケということはないし、「アナタワ」強イツケ、あるいは強ガツケということもほとんどない。

これに対し、「タッケ」は容体化した事実を回想して述べるのであるから、話者が自身のことについて言うこともあるし、相手を話題にして「ニシャモ イッタツケカ」(おまえも行ったっけか)と言ってもさしつかえない。

これは否定表現についても同じである。だから普通は、

○キノーワ ドゴサモ エガ<sup>o</sup>ねガッタワイ。(昨日はどこにも行かなかったわい)

○キノーワ ドゴサモ エガ<sup>o</sup>ねガッタゾイ。(昨日はどこにも行かなかったぞい)

などと言うが、会合があって、話し合いの時に原案に賛成する人がなかった時に、後で報告する場合に、

○ダレモ サンセーシねカッタナ。(誰も賛成しなかったな)

ということもできるが、

○ダレモ サンセーシねーツケワ。(誰も賛成しないふうだった)

と言う方が柔らかみがあるせいが好まれる。若い人は「サンセーシねガツケ」が多い。

○ダレモ サンセーシねガッタツケ。(誰も賛成しなかったっけ)

のように「タツケ」を使うこともできる。タツケは過去を回想しての表現である。「シねーツケ」と「シねガッタツケ」の違いは上に述べた通り。

さらに、経験や強調の意を込めて「タツク」を使うこともある。

○アノトギ サンセー シねガッタツタ。(あの時賛成しなかったった)

あの時賛成しないでしまったに近い意味になる。

○センセー イダツタ ガイ。(先生おられましたか)

○イねガッタツタ。(ずっといなかった)

これらの表現を、そのまま回想の表現にすることもある。

○アノトギ サンセー シねガッタツタツケ。(あの時賛成しなかったったっけ)

あの時賛成しないでしまったっけ、の意に近い。

(いいとよ きいち 国立国語研究所名誉所員)